

World Energy Outlook 1998 と World Energy Outlook 2002 における 石油生産見通し

WEO1998 の見方					WEO2002 の見方				
<p>在来型石油の生産ピークが 2010 年から 2020 年の間に訪れ、以降生産が減退するが、2015 年頃から非在来型石油への移行が発生し、非在来型石油の生産が増加し、石油生産の不足が生ずることはないとしている。</p> <p>原油価格は、2010 年まで横ばい、2010 年から 2015 年までの間に在来型石油の生産減退に伴い上昇し、以後は非在来型石油の増産により横ばいになるとみている。</p>					<p>中東産油国の生産能力の増加によって、在来型石油と NGL (Natural Gas Liquids) の生産は 2030 年までの需要増加に十分足りるとしている。非在来型石油の生産も増加し、特に 2020 年以降、その重要性が高まるとしている。</p> <p>原油価格は、2010 年までは横ばい、2010 年以降は、大規模油田からの生産が減少し、生産コストの高い小規模な油田からの生産が増加するため、線形で緩やかに上昇すると見ている。</p>				
石油生産の予測 単位：百万 bbl /d					石油生産の予測 単位：百万 bbl /d				
	1996	2010	2020			2000	2010	2020	2030
在来型石油	62.7	79.0	72.2		在来型石油 + NGL	72.2	83.6	95.8	107
NGL	6.6	11.3	15.2						
非在来型	1.2	2.4	21.5		非在来型	1.1	3.0	5.6	9.9
ブリティッシュ	1.5	2.1	2.5		ブリティッシュ	1.7	2.2	2.6	3.1
石油供給計	72.0	94.8	111.5		石油供給計	75.0	88.8	104.0	120.0
原油価格の予測 (1990 年\$/bbl)					原油価格の予測 (2000 年\$/bbl)				
	1997	1998-2010	2015	2020		2000	2010	2020	2030
原油価格	\$16.1	\$ 17	\$ 25	\$ 25	原油価格	\$ 28	\$ 21	\$25	\$ 29
WEO1998 の予測の考え方					WEO2002 の予測の考え方				
<p>在来型石油の究極資源量を、予測の開始年では控えめに見込み(1.8 兆バレル)、新しい情報や新技術の適用によって時間が経つにつれて増加する(2.3 兆バレル)。</p> <p>2.3 兆バレルは、1994 年の合衆国地質学調査所(USGS)による世界の石油の究極資源量の評価値である。</p> <p>非在来型石油の生産量は、需要と供給のバランスをとるために、急増する。</p> <p>在来型石油の究極資源量を 3 兆バレルとおくケースについても石油生産の予測を行っており、2020 年頃に在来型石油生産のピークが到来するとしている。</p>					<p>非 OPEC 諸国の在来型石油の生産量と世界の非在来型石油の生産量を予測し、需要と予測のギャップを OPEC 在来型石油の生産が埋める。</p> <p>1994 年の USGS による究極資源量 2.3 兆バレルが 2000 年にリバイスされ、NGL を含めて、約 3.3 兆バレルに見直しており、WEO2000 及び WEO2002 は、この評価値に依っている。</p> <p>USGS は、既知の埋蔵資源についても、最初の埋蔵量の見積もりが低くなる傾向等から「埋蔵量成長 (reserve growth)」があるとして、上方修正を行っている。</p>				

